

# 令和 7 年度第 1 回

## 富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

### 議事録

日 時	令和 7 年 12 月 19 日（金）				開会	午前 10 時 00 分
					閉会	午後 0 時 00 分（正午）
場 所	富士見市立水子貝塚資料館					
出 席 者	委 員	阿部委員	森屋委員	佐々木委員	大竹委員	和田委員
		○	○	○	○	○
		鈴木委員	井上委員	山口委員		
		○	○	○		
	オブザーバー	埼玉県教育局文化財・博物館課 倉澤主査				
	事 務 局	水子貝塚資料館 堀、大野				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者なし）					
議 題	1 開会 2 議題 （1）史跡水子貝塚再整備に関する基本設計計画案について 3 その他 4 閉会					

## 議 事 内 容

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 史跡水子貝塚再整備に関する基本設計計画案について

事務局 史跡水子貝塚再整備について、令和7年度中の整備基本計画策定に向け、計画作成委託業者や文化庁調査官等と意見を交換しながら、計画を作成しているところだ。本日は中間報告に近い内容ではあるが、現時点での基本設計計画案をご説明させていただき、内容についてご意見をうかがいたい。

基本設計計画にかかる今後のスケジュールとしては、来年2月の後半までに委託業者との最終的な案を作成、3月前半に第2回整備委員会を開催して内容の確認をしていただく、という流れを考えている。

事務局 まず、エントランスゾーンについての基本設計計画案を説明する。

(資料説明)

ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。

委 員 大型説明版の素材はどのようなものを考えているのか。

事務局 検討中だが、素材については費用等の面から陶板は難しい可能性がある。見やすさや耐久性の面から、適した素材を検討する。また形状についても、4面（ピラミッド型）または2面などを候補として検討中である。

委 員 他史跡の例では1面が多いように思う。

委 員 大型説明版について、現状の内容は一般の来園者にとって難解なように思う。エントランスゾーン中央には、説明看板ではなくモニュメントとしての立体物などを設置し、記念撮影を撮影するような場とするのはどうか。、三内丸山遺跡や加曽利貝塚に例がある。

委 員 来園者の中には、現状の説明板を読み込んでくれる方もいる。

委 員 サークルベンチに囲まれた円形の空間であることを生かし、環状集落を再現した園内の案内板を設置し、見学ポイントを示すのはどうか。

- 委 員 小学生が見学する際のことを考えると、現状の大型説明板の内容はより平易な内容にし、発展的な内容は展示館・資料館内で案内するほうがよい。
- 事務局 大型説明板のみならず、園内各所の説明板の移動・集約等を予定している。いただいた意見も踏まえて内容を検討する。
- 事務局 次に、学習ゾーン改修計画についての基本設計計画案を説明する。  
(資料説明)  
ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。
- 委 員 展示館内の展示について、旧石器時代からの海岸線の変動を含めた水子貝塚の立地と縄文海進について、ビジュアル的に示して解説する部分があるとよい。この部分の解説に第1コーナーを割くのはどうか。種子圧痕については第2コーナーに含めたほうが、解説内容の収まりもよい。
- 委 員 貝塚は、食料となった貝以外にも炭化物や微小貝といった資料も多く含んでいる。これらの解説も展示に盛り込むことで、貝塚遺跡の重要性や意義を示すことができる。貝層剥ぎ取り資料に含めて解説するのはどうか。
- 事務局 貝層剥ぎ取り資料部分は通路が狭く、スペースの使い方に工夫が必要となる。
- 委 員 貝層剥ぎ取り資料の現物と写真パネルを対面させ、A面・B面として役割を分ける手段もある。
- 委 員 デジタルコンテンツの充実には、機器の故障や更新に伴うランニングコストが増加するという側面がある。
- 事務局 文化庁の調査官からは、デジタルコンテンツはあくまで手段の一つであり、来館者に何を伝えたいか十分に検討して導入するよう助言があった。今回いただいた意見も踏まえて、内容を検討する。
- 事務局 次に、縄文時代の体験学習ゾーン、および縄文時代の村ゾーンについての基本設計計画案を説明する。  
(資料説明)  
ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。
- 委 員 公園西側の新設復元住居については、土葺き屋根を用いるのはどうか。既設の茅葺き屋根の復元住居との比較にもなる。北杜市の梅之木遺跡や西東京市の下野谷遺跡で例がある。

事務局 土葺きによる復元は近年話題になることが多く、計画作成委託業者にも少し話をしたが、維持管理の面で難しい面があるとのこととを聞いている。他施設の例なども見て検討したい。

委員 復元住居に用いる素材については、竹・スギなど当時の植生に合わない素材は誤ったイメージにつながるため避けるべきである。ササ葉・クリ材などを用いるのが望ましい。

事務局 いただいた意見も踏まえて内容を検討する。

事務局 次に、植栽計画についての基本設計計画案を説明する。  
(資料説明)  
ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。

委員 クリについては、まっすぐな樹勢を保つために年に2回程度、横枝を選定する必要があることに留意してほしい。  
その他、検討してほしい種として、リョウメンシダ、ムクロジ、キハダ、ナラガシワなどがある。それぞれ事業にも活用できる。  
業者が苗木をあまり持っていない樹種だが、苗木ゾーンなどを設けて、苗木を育てるところから事業の一部とするのはどうか。

事務局 「縄文の森と植物ゾーン」以外でのマテバシイなど、事業との兼ね合いで残したい樹種もある。今回いただいた意見も踏まえて、内容を検討する。

事務局 次に排水計画、サイン・看板、その他の施設、情報発信のための整備についての基本設計計画案を説明する。  
(資料説明)  
ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。

委員 資料館は体験事業の際に、調理の準備ができる場所がないので、いつも苦勞している。厨房施設は活用できると思う。

委員 その他の施設の厨房施設については、資料館の事業のために使う場所であれば、学習広場付近に建てることはできないのか。

事務局 史跡内に建てることは、縄文の村の景観を崩してしまいかねないので難しいと思う。

事務局 今回の委員会でいただいた意見も踏まえて、基本設計計画の作成を進めていく。

3 その他 特になし

4 閉 会